

## 編集後記

この十月に文学会は、委員の数を従来の十名から五名へと大幅に削減いたしました。今後本誌の編集は、編集担当委員二名を中心にこの五名で行われることになります。編集方針については、さしあたり変更はありません。しかし、文学会を活性化させるべく、小回りのきく運営委員会を実現したように、編集方針にも近い将来変更が加えられてしかるべきでしょう。

二百字詰め原稿用紙百二十枚を限度として、投稿された原稿を原則としてそのまま掲載するという現在のあり方では、「論説」のみを掲載する学術雑誌として、本誌を質的に維持することが困難な状況になりつつあります。編集委員の力量のみでは、たとえその数を増やしても、分野が多岐にわたるすべての投稿原稿に、「論説」であるか否かの判断を的確に下せないからに他なりません。

「論説」以外の区分を設けても、たぶん何の進展もないでしょう。分類の段階で同じ問題が生じるからです。しかし例えば、もしここにレフリー制度が導入されるなら、この問題は大幅に改善されることと思われまします。編集にはこれまで以上の時間と手間を要しますが、本誌が質的に向上することは疑いありません。そればかりか、執筆者やレフリーに当たられた方々に対する刺激も計り知れないものがあり、文学会が真の意味での学術団体に生まれ変わる契機ともなるでしょう。

個々の教員にとって専門分野における研鑽は、それぞれが所属する全国的もしくは国際的規模の学会で行い、愛知大学は単

に教育の場にしかすぎないという考え方もあるでしょう。従って全く専門を異にする者による「文学論叢」は、単に発表の場を提供するものであつて、編集段階で内容に干渉するものであつてはならないということになります。しかしわれわれの拠つて立つ場所は愛知大学であるわけで、教育のみならず研究者としてもまたこの場で陶冶されることこそが、本来の姿ではないのでしょうか。

(ミン・ラウン)

平成 六年 十月 十五日 印刷  
平成 六年 十月 二十日 発行

(非売品)

編 者 愛 知 大 学 文 学 会  
代 表 者 安 本 博

印刷所 豊橋市小池町  
東 邦 印 刷 工 業 所

発行所 豊橋市町畑町  
愛 知 大 学 文 学 会  
振替 〇〇八三〇一一四五六五四